

1. 略歴

1987年3月	京都大学文学部卒業（文学士）
1989年3月	京都大学大学院文学研究科修士課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）修了（文学修士）
1990年3月	京都大学大学院文学研究科博士後期課程（ドイツ語学・ドイツ文学専攻）退学
1990年4月	神戸大学教養部助手
1991年10月	神戸大学教養部講師
1992年10月	神戸大学文学部講師
2000年10月	神戸大学文学部助教授
2000年4月	文部省在外研究員としてドイツベルリン自由大学に留学（2001年2月まで）
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授（現職）

2. 主な研究活動

a 専門分野

近代ドイツ語圏文学

b 研究課題

18世紀の文学・思想が研究の中心にある。もともと初期ロマン主義研究から出発し、ノヴァーリスを中心に仕事を進めてきた。とくに超越論哲学・自然科学との関係において初期ロマン主義が展開した独自の表現技法と、その背景にある言語・芸術観が興味を中心にあつた。また、その問題意識を継承する20世紀の文学者・思想家の系譜も研究の対象となった。現在は、啓蒙期の文学・思想を、ロマン主義の前史という観点に限定されることなく研究している。また、18世紀以後、ドイツ語圏にあつて、自然科学者であり、あるいは自然科学研究から出発しつつ、文学者であつた人々―ハラー、リヒテンベルク、ノヴァーリス、アルニムから現代にいたるまで―の営みを〈実験者の文学〉という観点から跡付けるという作業を進めている。

c 概要と自己評価

G.Ch.リヒテンベルク（1742-1799）が30年以上にわたって書き残したノート『雑記帳』*Sudelbücher* 日本語版の編集・翻訳作業が一段落し、刊行にいたつた。2000ページ以上の原著をテーマ別に編集し、詳細な注と解説および年譜を付したもので、この規模での刊行は日本初である。

ドイツロマン主義・啓蒙主義をさまざまなコンテクストにおいて検討するという年来の研究方針は継続中であり、今期は、ドイツロマン派の作家E.T.A.ホフマンとノヴァーリスについてそれぞれ研究発表と論文執筆を行った。

2019年6月より、日本独文学会の会長に就任し、アジアゲルマニスト会議2019（2019年8月26日から29日、北海学園大学）の最終日には会長あいさつを行った。

d 主要業績

(1) 著書

共著、三浦信孝、塚本昌則（編）、『ヴァレリーにおける詩と芸術』、水声社、2018.8

共著、前田佳一（編）、『固有名詞の詩学』、法政大学出版局、2019.2

(2) 翻訳

個人訳（編訳）、Georg Christoph Lichtenberg: "Sudelbücher"、宮田眞治、『リヒテンベルクの雑記帳』、作品社、2018.6

(3) 学会発表

国内、宮田眞治、「ホフマンとディドロ」、シンポジウム「名前の詩学―文学作品における固有名詞と否定性の諸相」、東京大学、2018.2.11

国内、宮田眞治、「〈メディウム〉としてのガイスト―ノヴァーリスの〈ガイスト〉をめぐる」、ワークショップ「近代ドイツにおけるガイスト概念の諸相」（科研費基盤研究（C）17K02255「プネウマからガイストへ―古代ギリシアからゲーテにいたる人間三元論の系譜」（研究代表者：茶谷直人）による）、神戸大学、2019.12.22

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本独文学会、会長、2019.6～

国内、日本シェリング協会、理事、2008～